

市民公開講座「徳島大学病院循環器内科フォーラム2018」

不整脈治療 分かりやすく

「不整脈から心臓と脳を守る」をテーマにした市民公開講座「徳島大学病院循環器内科フォーラム2018」(同病院循環器内科主催、徳島新聞社共催)が4月22日、徳島市の同大学大塚講堂で開かれた。専門医4人が登壇し、心房細動患者に対する脳梗塞予防薬やカ

テーテル治療の詳細のほか、ペースメーカー関連機器の適応、弁膜症の最新治療法などを分かりやすく解説した。事前に聴講者から寄せられた質問に答える形でパネルディスカッションも行った。講演とパネルディスカッションの要旨を紹介する。



添木 武氏

心房細動の予防と最新治療

心房細動は不整脈の中で生活習慣病に近いものがあり、加齢によって有病率が高くなる。日本では2005年頃から心房細動の患者が徐々に増加し、30年には100万人を突破すると予測されている。

心房細動は脳梗塞や心不全につながる恐れがある。心房の血流が鬱滞することで、血栓ができ、血栓が剥がれ、頭に飛ぶと脳梗塞になる。また、心房細動の死亡原因トップの心不全の抑制も今後の大きな課題となる。

報告もある。無症状の人は予後が悪くなりやすいのがある。その危険因子は年齢、高血圧、心筋梗塞、心不全、弁膜症などが挙げられる。予防策としては、たばこや酒の抑制、肥満の改善、

心房細動は不整脈の中で生活習慣病に近いものがあり、加齢によって有病率が高くなる。日本では2005年頃から心房細動の患者が徐々に増加し、30年には100万人を突破すると予測されている。

酒たばこ抑え肥満改善

原因不明の脳梗塞の場合は、植え込み型心臓モニターで3年間記録して心房細動を見つけていることが可能だ。そして、心房細動と診断されたら、抗凝固療法(さらさらの薬)などを行い、症状に応じてアブレーション治療を行う。これは発作性心房細動、持続性心房細動の早期患者が対象となる。



心房細動のアブレーションを体験して

私は書の道に従事し、制作活動や大人・学生の指導に携わりながら、多忙な毎日を送っていた。2014年頃から動悸、息切れが起こり、制作や運動時に苦しさを覚えるようになった。原因は不整脈(心房細動)だった。担当医からは手術を勧められていたが、心臓と聞くだけで不安を覚え、なかなか踏み切れず3年の月日が流れた。

命の限り仕事を続ける

しかし、「このままでは良い作品づくりや仕事ができない」と思い、カテーテルアブレーションを受けることにした。入院と検査では、先生の丁寧な説明のおかげで不安が取り



岡田 靖氏

脳卒中の予防と発作時の対処について

脳は血の巡りが悪くなる場合、脳梗塞、血管が破れ、出血が起る。日本人の死亡原因第1位はがんである。この脳卒中と心臓病の死者数を合わせるとがんを占め、寝たきり状態になる原因となっており、循環器の大きな原因となっている。

脳卒中は脳の血管に起こる病気で、血管が詰まることで脳梗塞や脳出血の症状として発症する。脳梗塞や脳出血の症状としては半身の力が抜け、言語障害、視野障害などが起こる。くも膜下出血ではこ

脳卒中は脳の血管に起こる病気で、血管が詰まることで脳梗塞や脳出血の症状として発症する。脳梗塞や脳出血の症状としては半身の力が抜け、言語障害、視野障害などが起こる。くも膜下出血ではこ

脳卒中は脳の血管に起こる病気で、血管が詰まることで脳梗塞や脳出血の症状として発症する。脳梗塞や脳出血の症状としては半身の力が抜け、言語障害、視野障害などが起こる。くも膜下出血ではこ

食事見直し適度な運動

脳卒中の発症にはさまざまな危険因子が関連しており、それらを改善することによって予防が可能である。日常生活では、過度の飲酒を控え、適度な運動、バランスの取れた食事、減塩などを心がけたい。高血圧、糖尿病、心房細動、肥満の方は、抗凝固薬の服用を早めに受診してほしい。

- 開会あいさつ 佐田政隆氏(徳島大学病院循環器内科長)
- 第1部「心房細動から心臓と脳を守る」 講演①岡田靖氏(国立病院機構九州医療センター脳血管・神経内科臨床研究センター長) 講演②添木武氏(徳島大学病院循環器内科准教授) 講演③玉城佳代子さん
- 第2部「不整脈・心不全・弁膜症治療の最前線」 講演①飛梅威氏(徳島大学病院循環器内科助教) 講演②伊勢孝之氏(徳島大学病院循環器内科助教)
- パネルディスカッション パネリスト=岡田氏、添木氏、飛梅氏、伊勢氏 座長=佐田氏

第1部 心房細動から心臓と脳を守る

開会あいさつ

佐田 政隆氏



心臓の病気の中でも、近年増加傾向にあるのが不整脈だ。心拍リズムに異常が起るのが不整脈の症状だが、時方には大きく浸透していき、脳梗塞や突然死の予防につなげたい。きりや突然死につながる場合がある。治療法としては、デバイスといった電気的なもので不整脈を改善したり、アブレーションで不整脈の回路を断ち切ったりする方法がある。また、脳梗塞を起さないために血液をサラサラにする薬も有効だ。近年の医学の進歩は目覚ましい。今後、その知識が一般の常にも広く浸透していき、脳梗塞には大きな脳梗塞を予防につなげたい。

玉城 佳代子さん

除かれた。手術は5時間で終わり、翌日からは次第に楽になってきた。「リスクが大きくなる前に、一日でも早く手術を受ければよかった」と、後悔と反省の気持ちが生まれた。今後は、前向きな気持ちで日々精進を重ね、命の限り仕事を続けたいと決意を新たにしている。

